

被災地からのお便り（その3）

（2011年5月16日アップ）

茨城：

大きく被災した北部には友の会はないが、日立市「さくらだこ」は近日中に例会を病院で開催予定、水戸葵の会の会員さんには大きな被害はない様子。公共施設を使って例会を開催している場合、その会場が使えず、例会場所やそこへ移動手段の確保が難しそう。まだ余震が多く不安で動けない人も多い。

福島：

秋に予定されていた県をつどいは中止、翌年へ延期することが決まった。いわき市「いわき失語症友の会」では、支援病院である鹿島病院も断水のため業務再開までに時間がかかり、ようやく友の会のメンバーの方の様子がつかめはじめた。沿岸に住む会員さん(約6～7名?)は家を流されたようだが、避難先に連絡がつかない。不安でいわきを離れた方もあり、連絡が難しいが、6月には活動再開を目指している。

被災地からの便り（その2）

「全国脳外傷友の会理事長の東川さんに、岩手県の方から入った被災地の状況報告です。転送いただいたので、掲載いたします。」

度々の余震で慣れたとはいえ震度6となると流石に恐怖です。

私は覚悟を決めて布団を被ってじっと治まるのを待ちました。今朝ももらい水でしたが大した被害も無く安心。盛岡市内は11日の地震より、けが人や被害が多かったとのニュースです。

ダンボールが崩れていないか、カウンターに飾った「南房総会」から頂いた甲冑は倒れていないか心配で早々と家を出ようとすると、停電の為車庫のシャッターが開かない！

落ち着きはじめて生活について油断をしていました。男二人でチェーンをジャラジャラひき上げてやっと出庫。

金曜の午後はみんなで全国から頂いた物資を山田町、陸前高田市に届けるための仕分け作業を予定していて会員に招集をかけていました。が、この停電。復旧は目途が立たないとの事で、センターは休みにし、指導員と数人の会員で作業をいたしました。

きちんと小分けされた数種類のものが一人に一人に手渡し出来るようにしてメッセージカードつき、心のこもった激励の手紙や絵手紙、お数珠、リュク サック、温まれる飲み物、全国の皆さまのやさしさに感動しながら仕分けをいたしました。

実は陸前高田市が最もひどいという事で、当会の賛助会員のMSWの方が勤務先の近くにある1300名収容の避難所から要望のあった物資が、まな板、包丁、バケツ、タイヤ、レトルト食品、魚の缶詰、調味料等なのです。これは流石に全国のみなさんに送って下さいとは言えず、頂いた15万円で会員が手分けして購入に行きました。レトルト食品 調味料も盛岡市内の量販店でもお一人様 10個限定販売。魚の缶詰はスーパーにほとんどありません。あるのはシーフード缶だけ。何とか金額分調達して用意しました。

今朝6時私と副代表の小林がこれから出発します。沿岸部、山田町の避難所の情報を昨日もらいました。

山田町に入ったMさんの友人の方からの話です。電話では、昨日のお昼時点で1日におにぎり2個とお椀半分の味噌汁、バナナ1本。そこに200人 並ぶとの事。その数日前の食事はバナナ半分とゼリー1個、ヨーグルト飲料1本だった

そうです。避難先によってはたくさんの物資や困らない程度の食料、炊き出しなどもあるようですが、まだこんな所もあります。。

知的障害者の施設ですが、施設は流され今の小学校に避難しています。

こちら11日には別の所に移転しなければならなくなり、移動には荷物が少ない方がいいので、移転してから物資を届けることにしています。大きい所は其れなりに支援の手は届いていますが、弱い所、小さい所は置き去りです。今後こちらを「イーハトーヴ」の私達ができる支援させていただこうかと思えます。自衛隊が物資を保管している所に本日Aさんが行って交渉します。

以下山田のはまなす学園についてAさんからのメールです。



被災地からの便り

茨城県・大田仁史先生

一部崩落のプラザですが、福島からの避難者のお世話をしています。透析者の受け入れ先がなく、苦勞しながら通いで透析してもらっています。福島のいわき地区（駅周辺）チェーンメールのようなものがあつたらしく、風評で人がいなくなっていました。それでライフラインの復興が遅れ、コンビニも閉じて、我が家もいわきの子供や孫で足の踏み場もない避難所になってしまいました。メールは気をつけなければいけません。東北の避難者の事を考えると『頑張れ！東北！』です。被害のなかつたところは、私たちの分まで働いてください。（三月二二日）

私は、避難の方がそれぞれの病院に移っていかれてからは、半壊状態のままですが、片づけに合わせ、資料の整理など、ありがたく仕事をしています。

また、ラジオやテレビ、新聞で地元の人たちを勇気づけるようにできるだけ心がけています。元気な人がより元気に頑張ってください。

「日本のリハビリテーション」です。（四月四日）

岩手県・佐藤誠一先生

言葉のかけ橋のある盛岡市など内陸部の地震の被害は少なかったのですが、震災後しばらくは燃料や食料など物資の不足のために大きいサービスはしばらく休業になりましたが、言葉のかけ橋はライフライン復興後はご家族の要望もあり再開し、独居の方、ご家族が透析に行かなければならない方などを中心に失語症の方たちのケアをしました。

利用者の中には田野畑町、宮古市、釜石市、大船渡市など被災地出身の方もおり、書字やジェスチャーで家が流されたショックを伝えてくださった方も数名おられます。ある方は利用者の中で同じ体験をされている方たちがいることを知って少し気を取り戻されたりもしていました。

陸前高田市から盛岡失語症友の会の活動に参加されていた方の安否がまだ確認できておらず、心配しています。（四月十三日）